

## 守れ！イチモンジタナゴ！！プロジェクト 2017 報告書②

開催日：平成29年4月15日（土）

時間：13時30分～15時00分

場所：イチモンジタナゴ飼育場

参加人数：25名中20名

運営スタッフ：高木，松永，門，精華大学板倉ゼミ学生

※「野生動物学のすすめ」京都水族館より下村館長、岡崎氏

内容：・イチモンジタナゴの観察

- ・水質検査
- ・噴水池の状態を知る
- ・ろ過について学ぶ
- ・底面ろ過装置を作ろう
- ・ドブ貝のマーキング

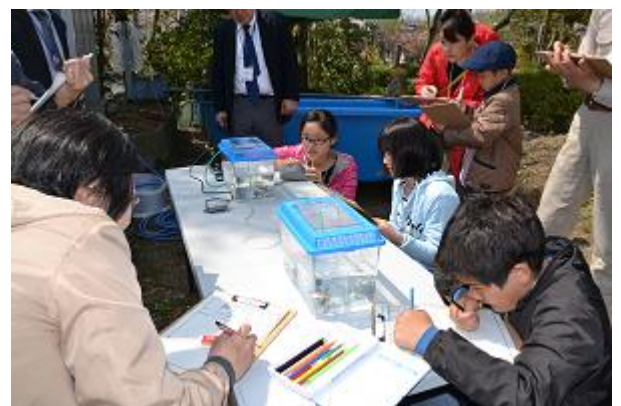


今回の開催は「野生動物学のすすめ」の中の一部として京都水族館の方々も来ていただきました。

活動時間の前と後は雨が降ったのに、この時間は暑いくらいの晴天でした。



イチモンジタナゴもオスは婚姻色が出てとてもきれいです。  
メスの産卵管も伸びてきています。



まずは観察から始めます。



各場所の水温を測り・・・



水を採取して・・・



水質検査をします。



今回は京都水族館の下村館長さんにもご指導いただきました。



ここでみなさんに現在の噴水池の状態を説明しました。

このように、池は緑になっています。これはアオミドロという藻が繁茂している状態です。なぜ、こうなっているのか、これはどういう状態なのかを簡単に説明しました。

生態系はバランスが大切です。バランスが崩れるとこうなってしまうということがわかってもらえたと思います。今後、この池でイチモンジタナゴが生活できるように整えていかなければなりません。



その後はお勉強です。今日のテーマは「ろ過」について。  
桜が咲き、柳の新芽が美しい中での活動も気持ちがいいものです。



しっかりメモも取って学びます。



塩ビパイプの長さを測って切っていきます。

ろ過のことを学んだ後、みんなで力を合わせて大型水槽の立ち上げにチャレンジです！ 大型水槽に使うろ過装置は「底面ろ過装置」です。その仕組みと原理がわかったところで、実際にパイプを切るところからみんなで作ります。



スタッフたちの手を借りず、先月始めて会ったばかりのメンバーたちが協力して行うこのような場面が見られるのがとても嬉しいのです。





ろ過装置作りと同時進行で、ドブ貝に個体識別をするためのマーキングをします。五寸釘を使って数字を彫っていきます。



パイプが出来たら組み立て作業に入ります。この作業は子供たちのテンションが非常に上がったように思います。組み立てる作業の楽しさに加え、自分たちが苦勞して切った多くのパイプがひとつの形になっていくのがおもしろかったのでしょう。



形が見えてきました！！





残念ながら、今回は時間がなくなってしまいここまでしか出来ませんでした。

本当は砂利を入れて水を入れ、空気を送り込んでパイプから水が出るところまでみんなでやりたかったのですが…



これは昨年のもので…

今回は、この后感想を書いてもらって終了しました。感想文の中には、やはり最後までできなかったことが残念という意見もあり、この水槽の完成をみんなで見届けたかったと思いました。小さな水槽は家庭でも設置できますが、このように大きな水槽を立ち上げる機会はなかなかないと思いますので、みなさんとも真剣にそして楽しそうにやっていたのが印象的でした。

このプロジェクトは、イチモンジタナゴを通して様々なことを学ぶことが出来るような活動をしています。今回はろ過について学んでもらいました。回を重ねるたびに、みなさんのイチモンジタナゴについての興味や知識が深まっていくことを願っています。